

テーマ「基礎看護学実習Ⅰ～地域の様々な場での看護活動から看護を考える～」

応募カテゴリー：②教育内容（実習）、学校概要：いわき市医療センター看護専門学校

福島県いわき市内郷御厩町3丁目91番地の1、課程名：3年課程、1学年定員：40名 就業年限：3年

内容

基礎看護学実習Ⅰ（看護の役割と機能）：初めて看護に触れる基礎看護学Ⅰ実習を地域の様々な場の看護活動の見学から看護の役割を見いだす事ができる実習としている。

単位数：1年次 1単位 45時間 実習時期：6月下旬～7月初旬

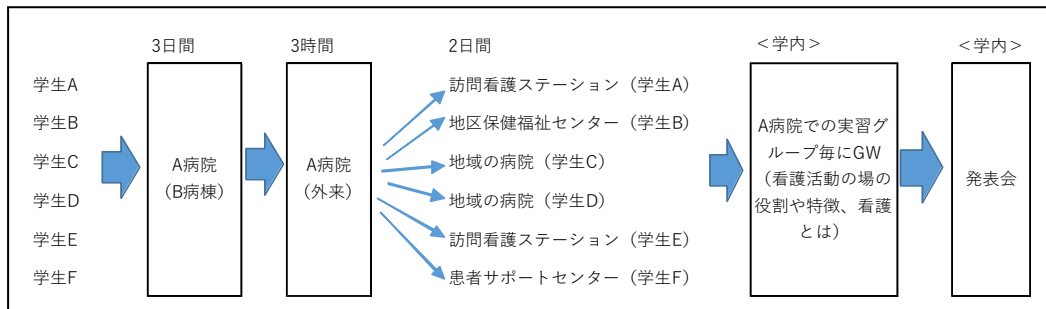
目的：看護の基本となる概念を踏まえて、看護の役割と機能を理解する。

実習場所・方法：A病院（急性期）での病棟実習（3日）と外来実習（3時間）は全学生、地域での実習（2日）は地域の亜急性期・回復期・リハビリ病棟を有している病院（24名）、訪問看護ステーション（8名）、地区保健福祉センター（6名）、A病院の患者サポートセンター（2名）に分かれて見学実習を行う。

実習内容：①看護活動の場・利用者の特徴・看護師の役割についてオリエンテーションを受ける。

②看護師とともに行動し、行われている看護を見学する。

③実習終了後、学内でまとめ学習をする。A病院以外の実習は全員が同じ経験をするわけではないため、学んだことをグループで共有し、その後クラス全体で発表会を行う。

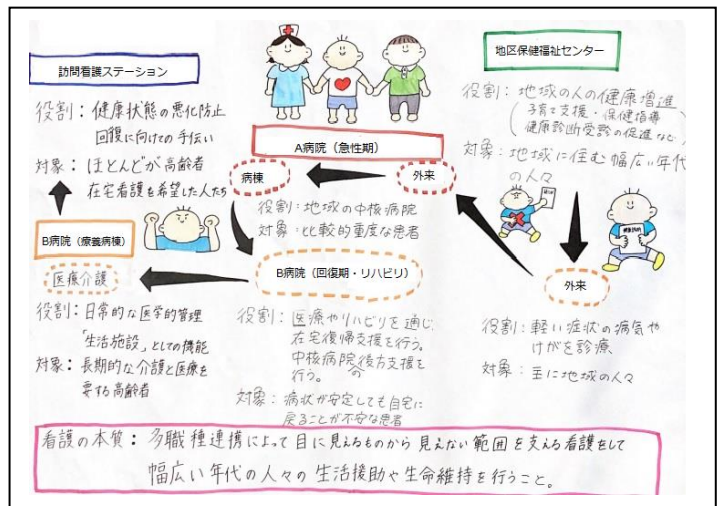


～学生の実習記録や発表から～ *学生に同意を得て掲載（一部抜粋）

- ・利用者は生活者だった。その人の暮らしと暮らしを支える家族に密接に関わっていくのが訪問看護だった。自宅に訪問するので利用者は自身のテリトリーに入られることに抵抗を感じる方もいる。そのことを理解し、訪問マナーを徹底することや、誠心誠意取り組む大切さを学んだ。
- ・患者さんの特徴に合わせて、長期的な医療と介護を必要とする高齢者を対象に生活施設として機能を持つ介護医療院、地域包括ケア病棟、療養病棟等各々の病院で様々な病棟があった。どちらでも、患者さんの生活を意識した看護が行われていた。患者さんが季節を感じたり、楽しくなるような工夫がされていた。
- ・リモート実態調査の見学があった。患者さんがこれからどのような生活をしたいと思っているのか、早く生活になじむためにはどうすればよいのかなど話し合っている姿を見て、患者さんを第一に考え、その人がその人らしく生きていけるように思う気持ちは場や職種が違っても一緒なのだ感じた。助け合うことで看護が成り立っていることが分かった。
- ・地域に住む全ての方を対象に支援が行われており、すべての人が安全・安心に暮らせるように「暮らしをまもる看護」をするのが役割だと学んだ。地域での支援と病院での支援は繋がっていた。
- ・看護活動の場が違って看護の本質は同じであることに気が付いた。対象の日々の暮らしや退院後の暮らしがその人らしく過ごせるように、できないことはできるように、できることは更にできるように、そして、できていたことができなくならないように援助する。患者に一番近い看護師はこれらを果たす役割と責任がある。
- ・相談への対応では対象者の表情や何を相談したいのかアンテナを立てて観察しながら対応しており相手が本当に相談したいことを相談できるように配慮していた。この点については病院で行われている看護と同様であると感じた。
- ・看護業務が多忙であること、それを淡々と行う看護師の姿に圧倒された。患者の数だけ看護提供の仕方があり、その人らしい生き方ができるように臨機応変に援助を行う看護師は光輝いており憧れを抱いた。

～まとめ～

実習開始前は、看護を学び始めたばかりの1年生を様々な看護活動の場で実習させることに不安があったが、どの実習場も1年生を温かく迎え入れて下さり、学生は教員が予想していた以上の学びを得ることができた。今後も地域の看護師の皆さまの力をお借りし、地域という大きい枠組みの中で看護を考えることができる看護師の育成を目指し取り組んでいきたい。



テーマ：「地区踏査を取り入れた地域の暮らしを理解するための授業の工夫」

カテゴリー：③教育方法（授業）

学校概要：学校名：いわき市医療センター看護専門学校 所在地：福島県いわき市内郷御厩町三丁目 91 番地の 1

課程名：3 年課程 1 学年定員数：40 名 修業年限：3 年

内容：

本校が立地するいわき市は広大な面積をもつまちで、東側は太平洋に面し西側は阿武隈高地の山間部であり、地域により環境や高齢化率、暮らしぶりなどの違いに大きい特徴がある。

1 年次 4 月より開始する地域・在宅看護論「いわき市の暮らし」の科目では、地域の環境、環境と生活のつながり、地域に暮らす人と暮らしの理解を目的に地区踏査を行っている。暮らしは人それぞれ住んでいる地域特性に大きく影響することから、地域特性の異なるいわき市内の 10 か所に分かれ地区踏査を実施している。学生は実際に地域を歩き回り、地域特有の雰囲気を感じながら、住民が生活している住居や街並み、暮らしぶりなどの情報を収集する。また、区長や民生委員に協力をいただき、学生は地域の方との交流から地域の環境と暮らしやすさ、地域での支え合い活動についてインタビューを行い学びを深めている。具体的な地区踏査の内容は、表 1 の通りである。

表 1 地区踏査の内容

	テーマ	内容
1	地域のデータ収集 (2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> 学生は 10 か所に分かれ、地域特性を知るためのデータ収集項目を挙げ調べる。 把握できなかった内容を整理し、地区踏査時に調べる内容を明らかにする。
2	地区踏査 1 回目 (4 時間)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の環境、環境と生活のつながりの理解を目標に活動する。 地区踏査を実施し、得られた情報、感じたことなどを記録する。
3	1 回目活動まとめ (2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> 地域特性についてわかったことや生活のイメージ、感想をメンバーで共有する。 2 回目の活動で把握したい情報、地域の方へのインタビュー項目を考える。
4	地区踏査 2 回目 (4 時間)	<ul style="list-style-type: none"> 地域に暮らす人と暮らしの理解、地域での支え合いの理解を目標に活動する。 地域の方へのインタビューから得られた、地域の環境と暮らしやすさ、健康に関することなど学んだことを記録する。
5	地区踏査まとめ (3 時間)	<ul style="list-style-type: none"> 2 回の活動から見てきた地域特性や暮らし、環境と生活のつながりなどを模造紙にまとめる。
6	発表 (4 時間)	<ul style="list-style-type: none"> 市内 10 か所の地区の発表から、地域特性の違いを理解し、その特性の違いが人々の暮らしや健康にどう影響するのか自分なりに考える。

<学生の学び> (一部抜粋)

- 商業施設が多く便利な地区だと思っていたが、交通の便が良くないことに気づいた。高齢者の「買い物難民」が増えていることが理解できた。
- 高齢者の中にはごみの管理ができず、家中ごみだらけになってしまう方がいると知った。そういう方の手助けを私たち学生ができればいいなと思った。
- 大きな病院の受診は、交通手段の少なさから行くのが大変な上に、一人暮らしの高齢者の方は頼れる人がいなく不安が大きいと思った。
- 火災、地震や水害などの災害などがあつた時、高齢者だけでは対応できないことも沢山あると思った。地域の支え合いが大事だと改めて感じた。
- 高齢化が進んでいたが、地域で見守り隊を結成し、住民一人ひとりを孤立させないという意識を持って活動していた。
- 坂や階段が多く、高齢者は家から出る機会が減ってしまうと思った。
- 世帯数が少ない地区だからこそ住民の結びつきが強いというメリットがあつた。
- 地域の高齢者が盛んに活動をしていることを知り驚いた。「自分のことは自分でやりたい」と考える高齢者が多くいることを学び、その人の意思を尊重していくことが大切だと思った。

<教員の所感>

- 地域特性が違う地域で活動し学びを共有したことは、生活の環境により抱える悩みや問題が異なることに気づくことができた。
- 1 年次の早期に地区踏査を実施したことで、地域に暮らす人々の看護は看護の土台になると実感できた。

3. 人々の交流の場

・老人むつしの会 } 代表者が区の人達に呼びかけ
 ・おみこし祭り }
 ・enna } 日常的に回覧板を使って交流
 ・隣組 }

4. 交通機関

・競輪場前 ・白土入口 } 計 6 つ
 ・谷川瀬 ・ハコ坂団地入口 } 本数が少なくて不便
 ・ヨ-7タウン谷川瀬 双藤町 }

5. 課題

施設や病院が多く、便利なイメージ → しかし → 買い物難民や孤独死が問題になっている。
 交通機関が充実しているのに高齢者は家族がいない。

飲食店や生活用品などが多く街に出ると便利である。
 しかし、少し離れた場所には坂が多く、バスも少ない。高齢者の生活は厳しいのではないかと感じた。若い人が増え、身元に頼れる人がいること、バスなどが増えることが安心な生活の第一歩

地区踏査のまとめ (一部抜粋)



地区踏査の様子